

■ぬまづ近代史点描79

絵葉書・古写真でめぐる沼津の「聖地」

■企画展のお知らせ

■イベント報告 休館のお知らせ

二〇一七年一〇月	史	沼
	料	津
	館	市
	通	明
	信	治
通卷131号		



沼津名勝 高級焼付写真（三津方面からの淡島・富士山）

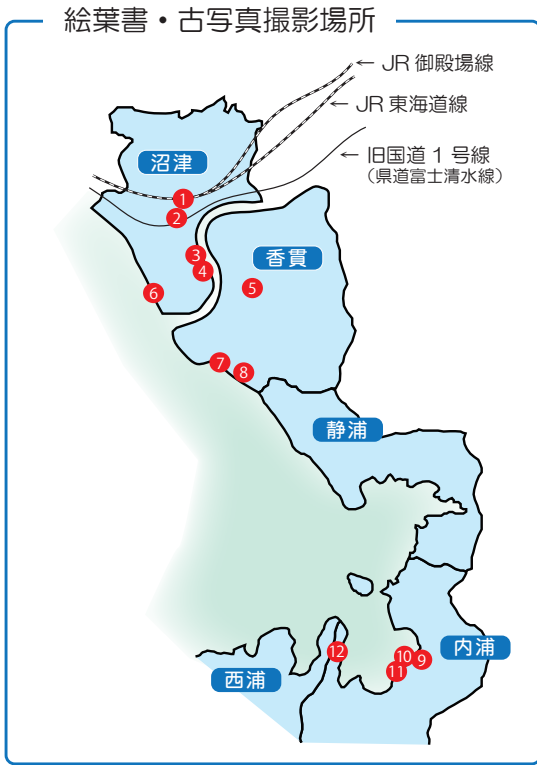
（当館所蔵）

この写真は「沼津名勝 高級焼付写真」とあるように、絵葉書ではなく、観光地などの風景写真を組にして売り出すのが流行した時代（明治後期以降）に作られたものと思われます。三津のみかん畑から内浦湾を望んだ写真で、最近話題のアニメの「聖地」全景ともいえる写真です。

写真中央の淡島は、『豆州志稿』では「重寺村ノ西陸ニ近シ高サ十町周り二十五町許リノ石山之奇石多シ」と記され、頂上に淡島神社が祀られています。昭和15年に海軍技術研究所第二音響研究部の実験場が設置され、栈橋などの遺構が現在も残っています。昭和59年より淡島海洋公園（現あわしまマリンパーク）が開業、日本唯一の海上ロープウェーで島に渡るようになっていました（現在撤去）。

絵葉書・古写真でめぐる沼津の「聖地」

最近、市内で盛り上がりを見せている「聖地巡礼」。アニメ作品の舞台として沼津が選ばれ、作品中の随所で沼津の風景が丁寧に描かれている。そして、作品中に出てくる風景・場所「聖地」を実際に巡る「巡礼者」が大勢沼津を訪れており、「まちおこし」の機運すらあり、第二期の放送が始まったことも相まって、更なる盛り上がりを見せている。そこで本稿では、「聖地」の過去の姿を絵葉書・古写真で紹介する。なお、「聖地」についてはインターネットのまとめサイト等で把握したものであり、また、紙幅及び資料の制約から「聖地」全てを紹介するものではないことをあらかじめお断りしておく。



① 沼津駅



沼津町停車場

沼津駅は明治22年（1889）2月開業。明治26年7月に沼津御用邸が完成し、皇族が乗降するようになったため駅舎が改築された。

③ 朝日稲荷から香貫方面



長倉ガラス対岸の工場
(長倉みつ氏寄贈)

右の橋は明治9年（1876）8月3日に開通した初代御成橋。

④ 上土町 ナティ沼津



通横町から見る御成橋
(長倉みつ氏寄贈)

現在の御成橋通りとさんさん通りの交差点付近の写真。上部に昭和12年（1937）7月1日の御成橋開通を祝う「祝開橋」の旗が飾られている。ナティ沼津は長倉ガラス店だった。

② マルサン書店仲見世店



仲見世の横町
(渡辺健一郎氏寄託)

現在のマルサン書店仲見世店の角から東方向を見た風景。昭和31年（1956）頃。ちなみに沼津の仲見世商店街は戦後のヤミ市が発祥だという。

⑤ 市民文化センター



旧制沼津中学校 玄関前
(増山昭氏寄贈)

明治34年（1901）4月開校。
昭和24年（1949）県立沼津東高校と改称。
昭和42年（1967）現在の岡宮に移転。
跡地に昭和57年（1982）7月市民文化センターが開館。



⑦ 島郷海水浴場

沼津名勝 桃郷ヨリ牛臥ヲ望ム

牛臥山の麓には、三島宿で本陣を営んでいた世古家が、明治後期に建てた高級旅館「三島館」があった。海岸は後に学習院の海水浴場として使われている。



⑥ 千本浜

沼津千本浜の富士

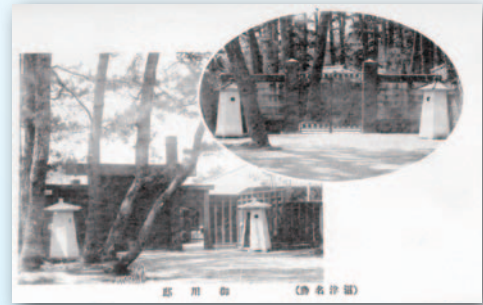
「最新版沼津みやげ」と題した絵葉書セットの一枚で、地引網の様子が写っている。防潮堤の有無はあるが、弧を描く美しい海岸は変わらない。



⑨ 安田屋旅館

伊豆三津海岸 対岳楼安田屋旅館
庭前の海水浴場と全景

明治時代創業の老舗旅館。月棟・松棟が国登録有形文化財になっている。太宰治が『斜陽』の第1章・第2章を書き上げたことでも知られる。



⑧ 御用邸記念公園

沼津名勝 御用邸

明治26年(1893)、当時皇太子だった大正天皇の静養地として造営された。風光明媚で温暖な沼津は、政界・財界の要人たちに好まれ、周囲には多くの別荘が建てられた。

伊豆三津海岸 松濤館と海水浴場

明治44年(1911)創業の松濤館は、国立近代美術館初代館長岡部長景の別荘が近くにあった関係で、政財界の要人・文人が多く訪れた。

海岸に整列しているのは内浦小学校の児童で、淡島までを往復する遠泳大会の準備体操をしているところ。



⑩ 三津海水浴場



⑫ 長井崎中学校

長浜村大峯の実景

(『豆州内浦漁民史料』中巻之二より)

長浜オオミネの魚見小屋からの眺め。海面を見張り、魚群が見えると手に持った「ローファー」と呼ばれる巨大なメガホンで漁師たちに知らせた。ローファーの向こう、手前が長浜城跡、奥が長井崎。



⑪ 伊豆・三津
シーパラダイス

沼津八景 三津水族館と竜宮丸

昭和5年(1930)に開設された中の島水族館が前身。昭和16年(1941)、経営が伊豆箱根鉄道に変わり、三津天然水族館に改称。昭和52年から伊豆・三津シーパラダイスに改称。現在水族館のショーで定番となっているイルカのジャンプを日本で初めて発表したのはここ。実はバンドウイルカ、セイウチ、ラッコの飼育を日本で初めて開始したのもここ。

平成 29 年度第 2 回企画展開催のお知らせ

本年度第 2 回企画展は、生誕 100 年を迎えた江藤千萬樹という考古学者を紹介いたします。江藤は考古学に情熱を燃やし、沼津周辺の北伊豆をフィールドとして、旺盛に発掘調査・研究を行いました。その成果は、今日見ても目を見張るものですが、時代の波には抗えず、若くして戦火に散ってしまいました。

この展示は、日本の考古学の勃興期を駆け抜けた、ひとりの若者の生き様を紹介するものです。あわせて考古学の持つロマンを感じていただけたら幸いです。



歴史講演会 『江藤千萬樹の人と学問』

講師：設楽博己氏（東京大学大学院教授）
 日時：平成 30 年 2 月 4 日（日）14 時から（開場は 13 時 30 分）
 会場：当館 2 階講座室
 申込：平成 29 年 12 月 9 日（土）9 時から電話または直接 先着 60 人

ギャラリートーク 学芸員が展示室で解説します。
 12 月 16 日（土）・1 月 20 日（土）・2 月 17 日（土）各回とも 11 時から
 申込・参加料は不要。（ただし観覧料が必要です。）

土器の拓本をとってみよう！

日時：①平成 29 年 12 月 23 日（祝）10 時から 11 時 30 分
 ②平成 30 年 1 月 20 日（土）13 時 30 分から 15 時
 会場：当館 2 階講座室
 対象：小学生以上 各回先着 20 人（1 人 1 回限り）
 内容：土器の拓本をとる体験講座です。
 材料・道具は当館で用意します。（参加料は無料です。）
 墨を使いますので、汚れてもよい服装でお越しください。
 申込：平成 29 年 12 月 9 日（土）9 時から電話または直接



イベント報告

第 1 回企画展 「沼津の学校はじめて物語」 関連イベント

【歴史講演会】沼津発の学校づくり
 教育長 12 年の軌跡と
 これからの沼津の教育

8 月 20 日（日）実施 参加人数 60 人

【体験講座】昔のノートを作ろう！
 8 月 18 日（金）実施
 参加人数 18 人



【ギャラリートーク】
 8 月 5 日（土）実施 参加人数 8 人
 26 日（土）実施 参加人数 8 人

夏のイベント

【戦時中の暮らしを体験しよう】

8 月 3 日（木）実施 参加人数 23 人
 焼夷弾の破片があたり、片足を失った岩下さんのお話を聞き、戦争の怖さを学びました。



◀ すいとん作り
 新に火を付けるのに
 苦労しました。
 おいしくない善のす
 いとんも、おいしく
 感じたようです。

【平和を考える戦争史跡めぐり】

8 月 9 日（水）実施 参加人数 22 人
 11 日（金）実施 参加人数 23 人
 両日とも真夏日となりましたが、沼津に残されたたくさんの戦争史跡を、マイクロバスでめぐりました。

▶ 海軍技研跡のモニュメント見学中



【高校生のための一日学芸員体験講座】

8 月 10 日（木）実施 参加人数 17 人
 バックヤードの見学、学芸員とはどんな職業かなどの講義のほか、実際に掛け軸を掛ける実習、書秩（和本のカバー）を作る体験をしました。

▶ 書秩作り体験



休館のお知らせ

くん蒸作業・展示替のため、下記の期間休館させていただきます。

11 月 20 日（月）
 から
 12 月 8 日（金）

沼津市明治史料館通信

第 131 号

平成 29 年 10 月 25 日

編集・発行 沼津市明治史料館
 〒410-0051 沼津市西熊堂 372-1
 TEL 055-923-3335
 FAX 055-925-3018

印刷 みどり美術印刷株式会社



ぬましんストリートギャラリーの展示



14 回目となる、ぬましんストリートギャラリーでの館蔵資料展を 9 月 4 日（月）～ 9 月 28 日（木）に開催しました。今年度は安永 6 年（1777）の沼津藩の成立から 240 年です。そこで今回は「沼津水野藩と沼津城」と題し、8 代続いた歴代藩主や、沼津城にかかわる当館所蔵の資料を展示しました。毎年この展示は博物館実習の学生が中心となって作り上げています。短い実習期間の中で構成から展示までの作業を実際に行う、とても大変ですが貴重な機会です。今年も 3 人の実習生が奮闘してくれました。

ぬましんストリートギャラリーでの展示作業



古文書入門講座

9 月の毎週土曜日午前中、初心者のための古文書入門講座を開催し、22 名が受講しました。今回は明治史料館のある西熊堂の元文 5 年（1740）「村鑑明細帳」をテキストに、ミミズののたかったような文字の解読に挑戦しました。

